

## **県教委ヒアリング備忘録**

実施日時：2025年10月7日(火)10:00~11:00

取材対象者：広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部

　　高校教育指導課 高校教育指導担当

　　主任指導主事 平山成樹氏、指導主事 染谷裕樹氏

取材者：一般社団法人福山青年会議所 We Play 人財育成委員会

　　委員長予定者 菅田直人、副委員長予定者 片岡達也

### **【要点抽出】**

#### **1. 福山JCの目的**

- ・ 高校生対象の青少年育成事業を計画中。
- ・ 「共同的な学び」をテーマに地域・学校・企業と連携したプログラムを模索。

#### **2. 教育委員会の見解**

- ・ 現代教育の最上位目標は「主体的な学習者の育成」。
- ・ 教師主導から生徒主導の学びへの転換が求められている。
- ・ 「探究的な学び」がその手段であり、自ら課題を設定・解決する力を育てる。
- ・ 地域や企業との連携が重要（例：戸手高校のSTEAM型教育）。
- ・ 実践には時間的・制度的な制約も多い。

#### **3. 高校生の現状と課題**

- ・ 主体的学びを実感できている生徒は少数。
- ・ 自己効力感（社会を変えられるという意識）が低い。
- ・ キャリア形成意識が弱く、自分の生き方や地域への関心も薄い。
- ・ 教員の働きかけと生徒の意識をセットで分析する必要がある。

#### **4. 今後の方向性**

- ・ 総合的な探究の時間を中心にはキャリア形成・主体性育成を進める。
- ・ STEAM教育を「社会実装」「横断的学び」の枠組みで推進。
- ・ 学校・地域・企業が協働する教育モデルの構築が鍵。

#### **5. JCの提案「映画制作プロジェクト」**

- ・ 高校生主体で地域課題をテーマに映画を制作。
- ・ 脚本・監督・撮影・協賛など多様な大人との協働を通じて実践的に学ぶ。
- ・ 「共同的な学び+STEAM+キャリア教育」の統合的プログラムとして高評価。

## 【ヒアリング要約】

まず質問項目として3つあります。

1つ目は「高校生の現状と課題」、

2つ目は「現代教育のあり方」、

3つ目は「共同的な学び」についてです。

特に現代の教育においては「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」が重視されています。

未来が予測できない社会の中で、既存の職業にとらわれず、自ら学び続け、課題を解決する力を育むことが重要だと考えています。

「教員主導で生徒が受け身で学ぶ」授業形態は時代遅れになりつつあり、生徒が自ら課題を設定し、探究的に学ぶことが求められています。

ただし、現状では「主体的な学び」を十分に実現できている学校はまだ少なく、6~7割が「実施している」と答える一方で、「本当にできている」と自信を持って答えるのは1~2割程度にとどまっています。

---

探究的な学びの基本は「生徒が自ら課題を設定すること」です。

学びの出発点を教師ではなく生徒に置くことで、学び方を学ぶ力（メタ認知）を育てます。

この中で、地域や企業など社会との連携が不可欠になります。

学校だけでは対応できない課題に、社会人・経営者など外部の知見を取り入れていくことが重要です。

県内でも、戸手高校が「STEAM型カリキュラム推進事業」に取り組み、企業研究会などを通じて地域連携教育のモデルをつくっています。

こうした総合的な探究の時間や地域協働が、高校教育の現場で進んでいます。

---

一方で、実際の活動には「時間の制約」「教員の出張制限」などの課題もあります。

授業時間内で行える取り組みであれば調整がしやすいですが、放課後や休日になると制約が増えます。

また、学校間や地域との連携も今後の課題です。

外部連携の進め方が分からずに困っている学校もあり、学校ごとに対応や理解度が異なります。

内容に合った形で個別にアプローチすることが望ましいとされています。

---

高校生の現状としては、

- 主体的な学びの実現度が低い
- キャリア形成意識が弱い

- 自分の生き方や地域社会との関係を自覚しづらい  
といった課題が挙げられました。

特に「自分の力で社会を変えられる」という自己効力感が他国と比べて低い傾向があり、県教育委員会としても課題意識を持っています。

そのため、キャリア形成教育の強化や「探究の時間」における生徒の主体性育成を重点的に進めています。

---

また、「STEAM 教育」は単なるものづくりではなく、「社会実装（社会との連携による課題解決）」を重視しています。

複数分野を横断的に組み合わせて課題を解決する思考力や創造性を育てることが目的です。

---

最後に、福山 JC 側からの事業構想として「高校生主体で地域課題をテーマに映画を制作する」というアイデアが提示されました。

監督・脚本・美術・企業協賛など多様な職種が関わる過程そのものを「共同的な学び」として位置づけ、地域や大人との協働を通じて生徒の主体性・創造性を育む狙いがあります。

教育委員会側も非常に興味を示し、実施を強く後押しする姿勢を見せました。